

トルコ金融政策（2019年12月）

2.00%ポイントの大幅な利下げを実施

2019年12月13日

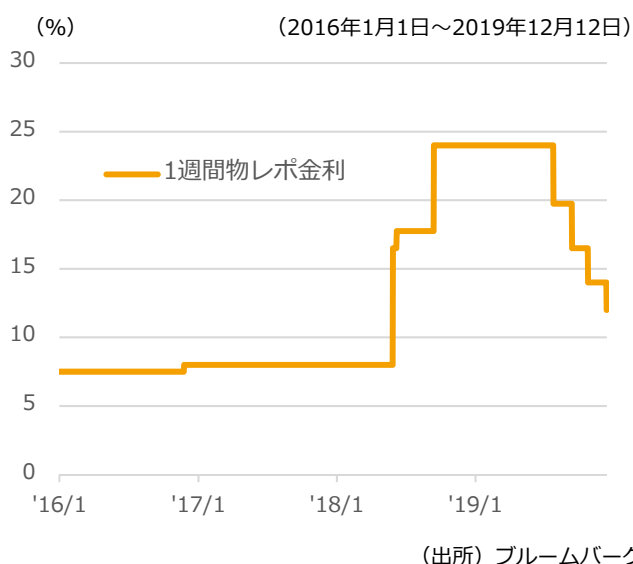
4会合連続の大幅な利下げ

トルコ中央銀行は12月12日（現地）、政策金利（1週間物レポ金利）を14.00%から12.00%に、2.00%ポイント引き下げることを見せました。市場予想の1.50%ポイントの利下げ幅よりも大きな利下げとなったため、発表直後はトルコ・リラは売られたものの、その後は値を戻すなど市場は冷静な反応を示しています。

前回の会合に引き続き、トルコ中央銀行が利下げを実施した背景には、インフレ率の鈍化基調が続いていることやエルドアン大統領の利下げ圧力などがあげられます。インフレ率に関しては11月は前年比10.56%となっており、市場予想以上にインフレの鈍化が進んでいました。また、トルコ・リラが安定して推移していたこともあり、トルコ中央銀行が追加利下げを実施する環境が整っていました。

足元では、トルコがロシアから購入したミサイル防衛システムをめぐる、11日（米国）に米上院外交委員会は対トルコ制裁法案を可決しています。トルコ外相は米国が制裁を科せば報復措置を検討すると発言しており、もし制裁が実施されれば米国との関係悪化を嫌気し、トルコ・リラは売られることが予想されるため状況を注視する必要があります。ただ、7-9月期のGDP（国内総生産）成長率は前年同期比で1年ぶりのプラス成長となっており、利下げの効果で景気回復が見られていることはトルコ・リラの追い風になりそうです。また、世界の多くの中央銀行が緩和的な政策を維持しているという外部環境を背景に、相対的に金利の高い新興国市場への資金流入が期待され、トルコ・リラを下支えすると考えています。

政策金利の推移



インフレ率の推移



当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。